



私の なんとか しなきゃ!

Vol. 7

PROFILE

1984年福井県出身。13歳でモデルデビュー。女性ファッション誌を中心に活動の幅を広げ、テレビ、CMなどでも活躍。ファッションブランド「サマンサタバサ」では、デザイナー業にも挑戦している。国際機関への寄付やチャリティーオークションなど、社会貢献活動にも熱心に取り組む。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

20歳を過ぎてから、実は母親が10年以上、UNICEF(国連児童基金)に募金を続けていることを知りました。理由を尋ねると、「私は4人の子宝に恵まれた。その恩返しとして、世界の子どもたちが幸せになれるようお手伝いがしたい」と一。その言葉にとっても感銘したのを覚えています。

そんな母親に影響を受けてか、いつか私も、何らかの形で世界のために何かしたいと自然に考えるようになりました。でもまずは立ち立ちしてからと、思っていたので、社会人になると同時に、いろいろな国際協力団体から資料を取り寄せるところから始めたんです。

その中で一番私の心に響いたのが、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)などが支援する“難民”でした。私は日本人として生まれてきて、たくさんの人に守られながら当たり前のように平和な毎日を過ごしている。でも世界には、10年、20年も故郷を追われて、見知らぬ土地で暮らさなければ

日本に“カッコイイ”国際協力を広めたい

モデル 道端 ジェシカ

MICHIBATA Jessica



photo by Shinichi Kuno

ならない人がたくさんいるんです。そんな現実が存在するなんて、それまで想像もしていませんでした。

少しでも、私が難民の人たちにできることはないだろうか。そんな思いで、国連UNHCR協会の「毎月倶楽部」に参加することにしました。毎月、自分が決めた額を寄付するという簡単なものですが、感謝状をいただくたびに「世界の誰かの役に立っているのかな」と胸がいっぱいになります。それ以外にも、自分の洋服でチャリティーオークションを企画したり、今できることを見つけて続けています。

そして昨年12月には、生まれて初めて挑戦したトライアスロンを通じて「Just Giving※」というチャリティーに参加し、難民支援に共感してくれたファンの方々からたくさん寄付をいただきました。何よりも私を通じて、世界の問題やチャリティーに興味を持ってもらえたことがうれしかった。こんなふうに、これからも皆さんの国際協力の

窓口になっていけたら素敵だなと思っています。

日本人ってなぜか、国際協力をするに気恥ずかしさを感じている人が多いように思います。でも誰かのために行動するのは、とっっても気持ちいいし、カッコイイこと。そんな経験を、これからもっと多くの人とシェアしていきたいです。

そして今年は絶対に、海外の難民キャンプに足を運んでみたい。私自身もこの目で現実をきちんと見なければならぬし、肌で感じたことを伝えていきたい。そう強く願っています。

※インターネットを通じたファンドレイジングツール。何かにチャレンジする個人を応援するという形で、友人や家族から寄付を集めることができる。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[詳しくはこちらから→](http://www.jica.go.jp)

なんとかしなきゃ.jp